

インタビュ

大進工業研究所社長 岡村慎一氏



とができた。その筆頭がやはりエアコン業界であり、近年の夏の猛

大進工業研究所(岡村慎一社長)は、主力事業である自動ろう付装置・システムの製造・販売が堅調に推移しており、今年6月期決算においても好業績を挙げた。

ここ3、4年は北米の空調設備(エアコン)メーカー向けを中心にオールアルミ熱交換器用自動ガスろう付装置を継続して納入し売上に寄与していたが、この6月期はユーザー側のスケジュールにより納入時期が7月以降となった案件もあって、「当社全体としての業績は減収を覚悟していたが、期後半にかけて国内設備投資案件の予想を上回る活発な受注・製作があったため、目標数値を達成するこ

調堅注受の装置ろう付自動 展進に実着も化球の

る。このおかげで米国交換器用自動ろう付装置の売上ダウン分を充分にカバーするに至った」と岡村社長。

国内のエアコン需要が高まる一つの要因として、岡村社長は「公共施設内の環境改善、例えば公立の幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校などでは冷暖房機器の設置が全国的に見るとまだ遅れているように、エアコンが必要とされている。ほかの各種公共施設においてもエアコンの潜在需要(新設・更新)があるようだ」と語る。そのため現在の好調な受注状況から、同社の国内エアコン業界向け自動ろう付装置の製作は年内ずっと、忙しい状況が続く見通しだ。

一方、グローバル展開を志向する同社は、まず北米において2020年の設備投資計画・予算を立てた顧客から引き合いを得て、セールスエンジニア部隊が現地に出向き商談を重ねているところ。そのうちオールアルミ熱交換器用自動ろう付装置の需要が急伸しているEV(電気自動車)に絡んだろう付技術の開発要求が来ており、市場が大きくだけに何とかしてクリアし、イニシアティブをとりたい」と岡村社長は前向きだ。

暑を背景に需要が伸張し、当社は国内エアコンメーカー各社から生産増強に促されるべく自動ろう付装置を多数発注していただいてい

今後の技術開発については、「世界的に需要が急伸しているEV(電気自動車)に絡んだろう付技術の開発要求が来ており、市場が大きくだけに何とかしてクリアし、イニシアティブをとりたい」と岡村社長は前向きだ。